

製品名: TAF II p68 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab18612

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	62kDa

抗原情報

遺伝子名	TAF15
別名	TAF15; RBP56; TAF2N; TATA-binding protein-associated factor 2N; 68 kDa TATA-binding protein-associated factor; TAF(II)68; TAFII68; RNA-binding protein 56
遺伝子 ID	8148.0
SwissProt ID	Q92804
免疫原	抗血清はヒト TAF15 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 351-400

背景

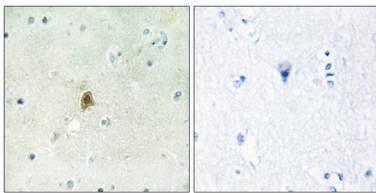
この遺伝子は、RNA 結合タンパク質 TET ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、多サブユニッ

ト転写開始因子 TFIID 複合体の明確なサブセットの構成要素として、RNA ポリメラーゼ II 遺伝子の転写において役割を果たしています。この遺伝子に関わる転座は、急性白血病および骨外性粘液性軟骨肉腫において役割を果たしており、この遺伝子の変異は筋萎縮性側索硬化症において役割を果たす可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012年5月]疾患：骨外性粘液性軟骨肉腫 (EMC) の一種において、TAF15/TAF2N に関わる染色体異常が認められます。NR4A3 との転座 t(9;17)(q22;q11)。機能:RNA および ssDNA 結合タンパク質で、異なるプロモーターでの転写開始時に特定の役割を果たす可能性があります。RNA ポリメラーゼ II (Pol II) とともに転写開始前複合体に入ることができます。PTM:Arg-206 はジメチル化されており、おそらく非対称ジメチルアルギニンになります。PTM:DNA 損傷時にリン酸化されますが、おそらく ATM または ATR によるものです。類似性:RRM TET ファミリーに属します。類似性:RanBP2 型ジンクフィンガーを1つ含みます。類似性:RRM (RNA 認識モチーフ)ドメインを1つ含みます。サブユニット:TATA 結合タンパク質 (TBP) およびその他の TBP 関連因子 (TAF(II)) とともに、RNA ポリメラーゼ II (Pol II) 転写多タンパク質複合体に属します。SF1 に結合する。組織特異性：普遍的。胎児および成人のあらゆる組織で観察される。

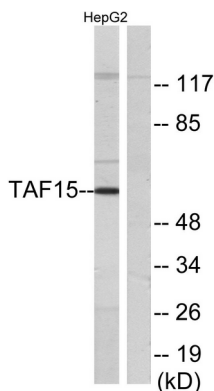
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

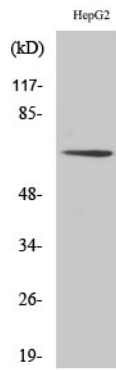
画像データ



TAF15 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TAF15 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



TAF II p68 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析